

タウンミーティング（2007年夏）

四季山遊会事務局

1. 2007年 上半期活動報告（1月～6月）

企画回数 40回

参加者数 588人（男性：288人、女性：300人）

2007年上半期参加者実績

	回数	人数	男性	女性	1回平均
1月	2	44	23	21	22
2月	6	103	56	47	17
3月	8	107	58	49	13
4月	10	155	68	87	16
5月	7	89	41	48	13
6月	7	90	42	48	13

2. 2007年 上半期会計報告（1～6月） 詳細は席上配布

事務局	備考
全体	3月から会費値下げ（300円 100円） トランシーバ購入補助（鹿児島、広やま各1）、レンタルサーバ代、事務局交通費等 保険代未納あり
バス	税金、タイヤ交換、バッテリー修理など
福岡	トランシーバ購入（5台）
鹿児島	トランシーバ購入（1台）
広やま	トランシーバ購入（1台）
スポット	トランシーバ購入（4台）

余剰金にてリーダーの装備を購入する件について

福：安全のためにも9mm - 30mのロープを是非購入してほしい。

事：ロープ等は購入する予定である。四季山遊会の企画で常時装備しておくなら8mm20mでも大丈夫ではないかと考えている。蔵王岳で使ったが、参加者もロープがあれば安全が確保できることを実感したことと思う。

30mで1.5kgくらいあるので結構重い。みんなで分担して持ってほしい。

基本的に四季山遊会は余剰金を貯め込まない方針。何か山行に必要な購入物品があれば申請してほしい。

全体会費から鹿児島会と広やま会のトランシーバを購入した件について

事：残額が少ないところについては、全体会費から補助しながら安全のために必要な備品を購入していきたい。

3. 安全登山について（安全に登山をするために）

3-1 ランク分け

事：無理な山行にチャレンジしない。

同じ中級でも、コースによって歩きが全く違うことを知っておくべき。

歩行時間が長い、距離が長い、標高差が大きい、危険箇所がある・・・それぞれの山行にはそれぞれ独特の歩きがある。自分の得意・不得意を知り、ランクの印で判断してほしい。

いくつか無謀なチャレンジがみられる。自分の得意・不得意を見極めて欲しい。ランク表をしっかりみて申し込むこと。

人数については、最初は少なめに募集をかけておいてメンバーをみて人数を増やしたりすることもある。

福：同じ山なのにランクの色が変わった時があったが実際何も変化がなかった。色が変わったら歩き方を変えてほしい。

事：リーダーの判断でランクを決定しているが、事務局では、常々ランクの見直しも行っている。また、季節によってもランクは変わる。このため、ランクの色は参考程度とし、を見て判断してほしい。

ランク基準表

1. 体力度判断

歩行時間	～ 3 時間	～ 5 時間	～ 7 時間	～ 10 時間	10 時間～
歩行距離	～ 5	～ 10	～ 15	～ 20	20～
累計標高差	～ 300m	～ 600m	～ 1000m	～ 2,000m	2,000m～

2. 危険度判断

判断基準	点数
基礎点数(危険のまったくない山はあり得ないため)	
登山道・指導標が整備されていない。	
特定された滑落・転落・落石の危険箇所がある。	
岩場や鎖場・雪渓がある。	
危険度の高い岩場や鎖場・通過困難な危険箇所がある。	

危険度判定は、上記 の合計

鹿：危険度判定は各項目全て が1つですか？

事：危険度判定は の合計です。

3-2. 四季山遊会の山行とは？

- 事：リーダーもボランティア・・・参加者もボランティア。山行の集団行動ではリーダーの権限は絶対。ただし、四季山遊会のリーダーは専門の教育を受けたプロではないため、常に最善の判断をしているとは限らない。参加者も常にリーダーの判断にどういう意味があるのか、それが最善かどうかを考え、わからなければリーダーに尋ね、または必要に応じて助言すること。四季山遊会の山行は山頂を目指すだけが目的ではなく、その過程を大切にする会。「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」=参加者が協力して安全に降りてくることを考えながらの山行であり、山頂に行けないこともある。
- 事：遠方からの参加者に嫌ごを言いたくないという気持ちや、中級ランクの企画が続いた時に初級ランクの方からの申し込みがあっても断り辛いということから、多少無理をしてしまうこともある。これは改善していかなければならない。
- 事：最近始めたのが四季山遊会に参加したことがないが、行くことを考えている人のために初参加の枠を作っている。特殊な枠を作っておかないと常連で埋まる。屋久島会についてもリピーターで埋まるので、四季山遊会の常連でも屋久島に行ったことがない人の枠を考えている。他にも特殊な枠があれば考えていきたい。
- 事：自動化になると、その辺も含めて募集の仕方もちょっと考えていけないといけないと思っている。
- リ：リーダーとしては、まず安全第一（せっかく遠方から来ても）。リーダー以外の人若干判断しなくてはいけない場合、各々の参加者が考えて欲しい(田口)。連れて行ってもらうことが当たり前になってはいけない。
- リ：スポット企画では「せっかくここまで来たから連れて行ってあげたい」とか、参加者も「みんなの恐れけど自分が怖い」というと皆行けなくなるから合わせてしまうなど、危険への悪循環になることがある。自分がリーダーだったらどうするか？ということを考えてほしい。リーダーも失敗することもあるが、そのたびに共有し学んでいく。

初参加者について

- 福：初参加者の技量を判断するのは難しくないのか？
- 事：申し込みの際、最近の山の経歴について聞き取り調査をしている。
- リ：当日も初参加の人は注意して観察している。
- 福：いくら経験者でも初参加の時は、必ず初級ランクの企画に参加させるべきなのでは？
- 事：近場の人であれば、なるべく初級から参加してもらうようお願いしているが、スポット企画などは遠方からの参加者が多く、その人達にわざわざ九州まで来て下さいとはお願いし辛い。
- 事：参加の際の明確な条件を出していないので断る理由がないというもある。
- 福：条件を設けず幅広く受け入れるという方針は、この会の良い面でもあり危うい面でもある。この方針で行く限り危険はいつまでも付いてまわるのだから、リーダーは絶対に保険に入り、参加者にも損害賠償問題に発展しないよう理解してもらう必要がある。
- (注：四季山遊会はリーダー保険に加入しています)
- 福：会の方針を教育するためにも、申し込みの際、承諾が必要なフォームにしてみても？
- 事：HP自動化では、承諾のページを作成している。

- 鹿：初参加の方は、自己申告だけのランク判断になるため、リーダーも判断が難しいので、初級からか　　までとかした方がいいのでは
- 事：リーダーの判断で断念してもらうこともあることを条件にしたい。

リーダーの育成について

- 福：会の規模にしてはリーダーが少ないので育成した方が良いのでは？
- 事：少なくともスポット企画については、リーダー2人体制を実現する方向で考えている。また、スポット企画はリーダーが特に少ないので育成を試みている。

4. 運転ボランティアについて

事：四季山遊会の運転ボランティアの条件について

- ・同乗者保険 500 万円以上であること。
- ・家族限定になっていないこと。万が一、山で運転者が怪我をした場合、帰れないことになる。
- ・年齢制限がある場合、代わりに運転できる人を確保しておくこと。
- ・同乗者の保障は、保険の範囲内とする。
- ・送迎は、集合場所までを基本とする。ただし、公共交通機関が無い時間帯については、事務局と協議の上で自宅送迎もできる。

事：集合場所まで知人同士の乗り合いで来る場合は、運転ボランティアから除外したい。

福：家族限定になっていないことが条件になっているが現実には難しいのでは？

事：家族限定になっていると運転者が怪我をしたら帰れないことになってしまう。以前のように登録制にして認定することも考えたが、登録制にしてしまうと登録した人は必ず車を出さないといけないような感じになる。車を出すために参加したり、無理に車を出させるようなことは避けたい。

事：事務局から個別に車出しのお願いをするようなことはしない。もし車が足りなくなったら後から申し込んだ人を断る方針である。

(現在は、人数をみて誰かが自主的に運転ボランティアを申し出てくれる)

鹿：あくまで集合場所から出発してからと帰りに到着して解散するまでが会のボランティア車なので近い人同士が寄り合っ乗ることは会には関係がないのでは？

鹿：どこまでを近い人とするかも問題。次第に範囲が広がってしまうことも考えられる。

鹿：基本ということは例外もあるのか。

事：少なくとも会の掲示板などで自宅送迎の話は絶対しないほしい。例外としては、公共交通機関が無い場合などを考慮することになる。

事：福岡はバスなので集合場所まで来てもらう。公共交通手段がなくてもタクシー等を使って参加する人もいるし、遠方から自転車で来る人もいる。

この件については、事務局内で討議し、決定します。

5. 登山のマナーについて

事：私たちは、自然で遊んでいるのではなく、自然に遊んでもらっていることを忘れない。

自然は、私たちが山に入るだけでも痛んでいる。常に自然に恩返しする気持ちを大切にそのためには

1. ゴミを増やさない。生ゴミも山には捨てない。
2. 植物を守っているロープ等の中に入り込まない。
3. 植物を持ち帰らない(持って帰るのは、ゴミと思い出だけ)

リ：屋久島会は山だけでなく島に持ち込んだゴミも全て持ち帰るようにしている。

リ：原則論として、植物を持っていかない。

事：時々、珍しい植物を根こそぎ持って帰る人がいる。木の実等は自然の恵みなので、その辺は臨機応変に考えていただきたい。例えば、キイチゴを1粒2粒口に入れることまでは制限できないだろう。

事；すれ違う際は登り優先がルールだが、危険性や人数等によって臨機応変に道を譲ることも大切。

リ：ルールを無視して急いでいく人にムツとくることもあるかもしれないが、急いでいるのには理由がある場合もある。

事：山頂での飲酒について(マナーというより安全面より)

- ・山行での飲酒は、もし怪我をしても保険がでない。
- ・素面でも怪我をする場合があるのに飲酒をしての登山は危険性が高いので避けてもらいたい。

事：山行後の飲酒について

- ・ビールには、利尿作用があるので脱水症状が起こる可能性が高い。
- ・ビールの為に水を我慢したりしないでほしい。

6 . バス会計について

事：バスの使い方が当初の予定と変わってきたため、バス協力金は全員に返す。返金は送料・振込み料などを考慮し、郵便局の普通為替としたい。

新たにバス運営資金のカンパを提案する。

【カンパ】

現状では返せるあてがない。

カンパしたことによって、バス利用を優先するわけではない。バス運営資金のカンパをしている、していないに関わらず、全く同じ立場でバスを利用できるものとする。

以上を理解したうえでのカンパとする。

【値上げ】

バスの老朽化に伴って、修理箇所が出てきており、今後は益々修理が必要になると思われる。このため、当初の想定よりも資金が必要となっている。

バスを存続させるかどうかも含めて、上記提案をご検討願いたい。

福：値上げするのであれば、会計報告書を出してほしい。

注：別途報告します（事務局）

福：バス料金には修繕積立費は含まれてなかったのか？

事：含まれているが、今回は予想を上回る修理費等がかかった。また、人数の増減で料金を変えていないので、バス利用者が多い時と少ない時でバスの積立費が上下する。このため、企画の回数や乗車数によりバスの積立金が予定通りにいかない。

福：バス料金を一定額に設定するのは無理がある。人数で料金が上下するのは仕方ない。1台あたりで料金を設定すべきだ。

福：ちまちま値上げするくらいなら今回一気に上げてほしい。倍でも良い。

事：当初の設定が安すぎたことや、1年通しての運営状況がつかめなかったため、値上げがし難かった。ここ1年の運営状況をみて、大幅な値上げが必要と考えている。

福：他のツアーより少し安くくらいで設定しても良いのでは？

福：料金が高くなって参加者が減っても仕方ない。バスの存続の方が大事だ。

福：バスを利用せざるを得ない企画（スタート地点とゴール地点を別にする）を増やせば良い。

事：バスの利用には賛否両論あるが、安全第一を最優先に考えればバスは必要と考えている。

福：バスの存続を前提に値上げすることに賛成（全員）

事：値上げ額については全てのTMが終了してから別途連絡する。

鹿：バス協力金の返金については受領書が必要なのでは？

事：返却の受領書を返信封筒に切手を貼って送ることとしたい。

鹿：修理費等も含む維持費を考えると契約によってはレンタカーの方がよいのでは？

事：レンタカーにするメリットもあるがキャンセル時の人数の問題や1ヶ月前だと企画の設定が難しい等のデメリットもある。

事：1ヶ月前の企画の設定についてはリーダーの仕事の都合もあるので、できるだけリーダー2名制にするなど考えている。

鹿：鹿児島会でバスを利用するときなどレンタカーを考えてもよいのでは？

事：とりあえず、今回はバス代を値上げして、故障が多くなってきたときに再度レンタカー等の案も検討する。

7. 会費の値下げについて

事：安いネット注文の写真プリントとする方法があり、これを採用したい。このため、実費分が安くなるので、値下げを提案する。また、家族や夫婦で参加の場合、二人目からは写真代が不要となるため、写真代相当分を差し引きたい。

福：値下げせずに余った分をリーダーの下見費用にまわしたら？

リ：中途半端に貰ってしまうと義務になってしまうのでそれだったら貰わない方が良い。

福：値下げせずに安全のための装備代にまわしたら？

福：ワンコインで会計も楽なのでわざわざ値下げする必要はない。

福：値下げしなくて良い(全員)

事：福岡から値上げせずに安全のための装備代にという提案があった。いかがか？

広：異議なし。

鹿：会費が高いという意見がでてきているのか？

事：そういうわけではなく、会としては余剰金は貯めないのが会の基本だから。

鹿：会費を100円安くするよりも備品等を揃えた方がよいのでは

リ：各地のTMに参加するための代表・副代表の移動がバスの乗り継ぎ等での移動などハードなスケジュールなのでボランティアの域を超えている。今後、誰かが引き継ぐときの事も考えるともう少しは社会的な常識の範囲での移動方法をとった方がよいので会費は現状のままで写真代が安くなった分のお金は、そういった移動費にあてた方がよい。

鹿：家族や夫婦での参加の場合、同じ写真は必要ない

事：家族や夫婦での参加の場合、今までなるべく違う写真を送るなどするために写真をたくさん撮るなどの努力をしていたが二人目より写真代分を割引にした額としたい。

8. 原田さんの近況報告

事務局から報告

9. 個人情報に関する事

事：個人情報は、全体事務局及びそれぞれの会の事務サポーターが管理し、リーダーには、参加者の必要最小限の個人情報を渡している。メールアドレスは事務局のみで管理しており、基本的にリーダーにもメールアドレスは公開しない。ただし、スポット企画のように詳細な打ち合わせが必要な場合に限っては、リーダーに連絡することもある。

10. ホームページの自動化

事：これまで、山行の申込みはメールで申し込んでいたが、月に百通以上のメールを処理しており、各事務局ともほぼ限界に近くなっている。このため、現在ホームページの自動化を進めている。軌道に乗れば、山行等の申込みはメールではなくホームページ上からとなる。どうしてもホームページ上から申し込めない場合のみ、メールで受け付けるが、ホームページからの申込みを優先することとなる。

11. その他

年会費について

福：会員の自覚も出るので年会費を取ったらどうか？

事：垣根を低くした会という四季山遊会の独自性が失われることから、年会費制にするつもりはない。

タウンミーティングの名称について

福：主旨が分かり難いのと、政治的な悪いイメージがあるので名称を変えてほしい。

事：愛着のあるネーミングなので、括弧書きで補足する等の手段を考えたい。

鹿：屋久島企画に参加したいが初参加やいろんな県からの参加者が多いのでなかなか参加できないので鹿児島会だけの企画とか検討してほしい。

事：屋久島、初参加の枠などを検討している。

11. 四季山遊会の事務局体制

全体事務局

原田 真人 : 特別顧問
稲葉 博明 : 代表(全体総括)、保険サポーター、HP管理サポーター補佐、
会計サポーター補佐
武藤 尚子 : 会副代表(全体副総括)、HP管理サポーター
中田 輝昭 : 事務サポーター(申し込み受け付け、名簿管理担当)
樋口 景子 : 会計サポーター
下條 暁子 : 会計サポーター
上田 博文 : バス管理サポーター

鹿児島会

吉野 清美 : リーダー
稲葉 博明 : リーダー、鹿児島事務サポーター補佐
星 直樹 : リーダー
武本 秀樹 : リーダー
斉藤 加代子 : 事務サポーター

福岡事務局

坂井 寛 : リーダー
下田 剛 : リーダー
武藤 尚子 : リーダー
寺井 紀義 : リーダー
江利 俊治 : 事務サポーター
山戸 佳代 : 事務サポーター

広島やまぐち会

前田 剛 : リーダー
山本 章夫 : リーダー
平野 祥世 : 事務サポーター
衣松 邦子 : 事務サポーター

屋久島会

内藤 智之 : リーダー
上田 博文 : リーダー
中田 輝昭 : 事務サポーター

東京会、関西会

田口 芳人 : リーダー
中島 千晶 : 事務サポーター